

「包摂的で持続的な社会を考える」 学習に向けた教職員対象セミナーの実施

「SDGsを使って子どもたちと社会を見つめる
—身近な公園に出かけよう—」

兵庫県立人と自然の博物館 主任指導主事 安田 英生
研究員 福本 優
主任研究員 橋本 佳延
主任研究員 高田 知紀

1. はじめに

兵庫県立人と自然の博物館（以下、ひとはく）は、2022年10月に30周年を迎えた自然史系博物館である。「人と自然の共生」をテーマに1992年に設立され、「思索し、行動し、提言する博物館」をポリシーとして、研究成果を自然環境の保全や再生、地域づくりへと繋げる試みを実践している。

ひとはくでは、来館者に単に展示を見てもらうだけではなく、館員が来館者に向けて資料や標本を使ったセミナーやイベントを積極的に実施し、来館者の学習効果を高めている。2003年度からは、幼児・児童・生徒が意欲的に取り組み、「科学するよろこびと感動」を実感できる授業づくりを推進するため、各種学校園等の教職員や一般団体等の指導者を対象に、博物館の持つ豊富な学習資源や研究員の専門性を活かした学習プログラムを学校の夏季休業期間中に提供する「教職員・指導者セミナー」を約20年間にわたり実施している（図-1）。本セミナーには、一定数のリピーターがいるほか、兵庫県の中堅教諭等資質向上研修の対象研修となっていることや、各学校団体への積極的な広報活動により、毎年新規の受講者に学習プログラムを提供することができている。

2015年9月の国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、その中で示された持続可能な開発目標（SDGs）が国内外で急速に浸透していく中で、兵庫県下の学校教育現場においてもSDGsを取り入れた授業実践が求められるようになってきた。また、ひとはくでもSDGsの目的に賛



図-1 小学校の授業で使える植物の話
—身近な植物を中心に—

同し、実際に行動するためにSDGsに関する方針である「ひとはくSDGs宣言 (<https://www.hitohaku.jp/infomation/SDGs.html>)」を2020年に定め、SDGsのコンテンツの充実化を積極的に図ろうとする気運が高まってきている。特に、包摂的で持続的な社会の実現のためには、SDGsの本質を理解し、子どもたちに包摂的で持続的な社会を考えさせる授業を展開できる教職員の仲間をふやしていくことが欠かせないだろう。

これらの流れを受け、教職員・指導者セミナーにおいてもSDGsに関連した学習プログラムを提供する検討を進め、2020年度から「SDGsを使って子どもたちと社会を見つめる―身近な公園に出かけよう―」を実践している。本発表では、その内容を紹介する。

2. SDGsを使って子どもたちと社会を見つめる ―身近な公園に出かけよう―

1) きっかけ

本セミナーのきっかけは、ひとはくの研究員（福本）が館所属の指導主事（安田、兵庫県教育委員会籍）に相談したことである。相談内容は「学校団体にひとはくや県内の公園を活用してもらうにはどんな手立てがあるか一緒に考えてもらいたい」というもので、当初はセミナーの企画立案を念頭においたものではなかったが、他の研究員（高田、橋本）も加わって手立てを検討していく中で、教職員・指導者セミナーとして、教職員に公園の現状や活用方法についてSDGsをものさしとして利用しながら考えてもらう機会を提供する、という結論に至った。

2) 実施内容

本セミナーは、午前と午後にまたがった1日を要する長時間のプログラムである。プログラム構成は、大きく「講義」「フィールドワーク」「グループワーク」の3つに分けることができる（図-2）。次に構成ごとに内容を紹介する。

①講義

講師と受講者がSDGsの認識を共有するため、セミナーの最初にSDGsの概要を確認する講義「SDGsとは？～ゴールとプロセス～」を設けた。

サブテーマの「～ゴールとプロセス～」の順に従って、まず「ゴール」を解説するパート「SDGsとは？」を実施した（図-3）。具体的には、①「持続可能性」とは、②「持続可能な発展」とは、③「持続可能な開発」を担保するために必要なこととは、について

時間	活動内容	担当	備考
9:30～10:30	「SDGsとは？～ゴールとプロセス～」	橋本佳延先生 高田先生	
10:30～12:30	フィールドをSDGsの視点で評価	福本先生	ワークシート1
13:30～15:00	個人ワーク（10分）	福本先生	ワークシート2
	グループワーク 「公園のポテンシャルを引き出す！」 SDGsの視点で評価した内容を交流し、どんな視点から公園を評価できたか、議論する。	福本先生 グループ担当 橋本先生 高田先生 安田	学校種ごとのグループで実施 発達段階で分ける（人数次第） 低学年、高学年、中学校・高校 3～6人ワークシート3
15:00～15:30	グループワーク内容交流	福本先生	各グループ10分
15:30～15:50	「SDGs」実践事例	長田先生	三田市立弥生小学校の実践例
15:50～16:10	SDGs対談	長田先生 安田	安田の質問に長田先生が回答する形式
16:10～16:30	SDGsディスカッション	長田先生 全体	全体でディスカッション

図-2 セミナー全体の構成

30分の解説を実施した。この講義により、包摂的で持続可能な社会とはどのようなものか、その社会を実現するときに一番大切にしたいテーマである「誰ひとり取り残さない」を把握することと、その後の活動内容に必要な知識をある程度そろえることを期待した。

次に「プロセス」のパートでは、「SDGs」がどのようにできあがってきたのか、また日本にはどのように広がってきたのか、という内容を30分解説した。この中では、県内のSDGs関連団体や学校団体が取り組んでいるSDGsの状況も紹介した。この講義により、SDGsが構築されてきた経緯や背景を知り、認知度が高まってきたことにより新たに生まれてきた課題などを受講者に把握してもらうことをねらいとした。



図－3 セミナーのようす

②フィールドワーク

講義後、ひとくから徒歩で訪問できる近隣の公園でフィールドワークを実施した。

フィールドワークの主なねらいは、身近な公園をSDGsの視点で見つめなおし、評価できるところや課題点を見つけ出すところにある。

フィールドとした公園は2つで、1つは遊具や水場やベンチなどの休憩所が設置された比較的小さな街区公園、もうひとつは遊具・水場・ベンチの他、コミュニティセンターや駐車場、運動場、野外トイレ、モニュメントといった施設が附帯する地区公園とした。規模・役割が異なる2つの公園をめぐることで、公園とSDGsの関係を多様な視点で考えるきっかけを提供することを意図した。

フィールドワークでは、帯同する研究員によるまちづくりの視点からみた公園の意義やその特徴、公園内に生えている植物の特徴などについて簡単な解説を行うとともに、受講生の自由な発想を妨げない範囲でSDGsの視点で公園をみることのファシリテーションを実施した。また受講者が考えをまとめる手立てとしてワークシート（図－4）を提供した。ワークシートにはSD

SDGsを使って子どもたちと社会を見つめる・身近な公園に出かけよう・（ワークシート1）

身近な公園をSDGsの視点から見直して、チェックリストを埋めてみよう！！

1. SDGs チェックリスト

項目	あてはまる？	なんで？
1 貧困をなくそう	☐ はい ☐ いいえ	
2 飢餓をゼロに	☐ はい ☐ いいえ	
3 すべての人に健康と福祉を	☐ はい ☐ いいえ	
4 質の高い教育をみんなに	☐ はい ☐ いいえ	
5 ジェンダー平等を實現しよう	☐ はい ☐ いいえ	
6 安全な水とトイレを世界中に	☐ はい ☐ いいえ	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	☐ はい ☐ いいえ	
8 働きがいも経済成長も	☐ はい ☐ いいえ	
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	☐ はい ☐ いいえ	
10 人や国の不平等をなくそう	☐ はい ☐ いいえ	
11 住み続けられるまちづくりを	☐ はい ☐ いいえ	
12 つくる責任つかう責任	☐ はい ☐ いいえ	
13 気候変動に具体的な対策を	☐ はい ☐ いいえ	
14 海の豊かさを守ろう	☐ はい ☐ いいえ	
15 陸の豊かさも守ろう	☐ はい ☐ いいえ	
16 平和と公正をすべての人に	☐ はい ☐ いいえ	
17 パートナリーシップで目標を達成しよう	☐ はい ☐ いいえ	

図－4 ワークシート1



図ー5 フィールドワーク（近隣公園１）



図ー6 フィールドワーク（近隣公園２）

G s の 17 のゴールが記載してあり、まずは訪れた公園について、記載されたゴールを手がかりに、それぞれのゴールがあてはまるか、あてはまらないか考えてもらった。次に受講者は、あてはまる場合はあてはまる理由を、あてはまらない場合にもその理由を、自分なりに考えて記入した。2つの公園それぞれで同様の活動を実施し、午前の部は終了した。（図ー5、図ー6）

③グループワーク

グループワークのパートでは、最初に、個人ワークの時間を設けた。フィールドワーク時の考えを振り返り、公園で感じたことと、少し時間が経って感じていることの違いをワークシートに整理してもらった（図ー7）。

個人ワークの後は、事前に分けておいたグループに分かれてグループワークを実施した。最初に実施した令和2年度は、多様な校種が混ざっていた方が議論が活発になると考え、異校種を含むグループ編成を行った。しかし、校種によって教育課程の編成の仕方に違いがあったり、発達段階によってアプローチが異なるため、2年目の令和3年度からは同じ校種、同じ発達段階の子どもを対象とする施設が同じグループに集まるよう編成した。

グループワークでは当該セミナーを担当した研究員と指導主事が各グループでファシリテーター（以下、グループファシリテーター）を務めて意見交流や議論の活性化をサポートした。また、総合進行役となる総

SDGsを使って子どもたちと社会を見つめる・身近な公園に出かけよう・（ワークシート2）
初に向かって、フィールドワークを振り返ろう！ さっきのチェックはほんまにあってる？

項目	ほんまに??	なんで??
1 貧困をなくそう	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
2 飢餓をゼロに	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
3 すべての人に健康と福祉を	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
4 質の高い教育をみんなに	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
5 ジェンダー平等を實現しよう	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
6 安全な水とトイレを世界中に	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
8 働きがいち経済成長も	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
10 人や国の不平等をなくそう	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
11 住み続けられるまちづくりを	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
12 つくる責任つかう責任	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
13 気候変動に具体的な対策を	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
14 海の豊かさを守ろう	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
15 陸の豊かさも守ろう	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
16 平和と公正をすべての人に	☐ あってる！ ☐ ちがった！	
17 パートナースHIPで目標を達成しよう	☐ あってる！ ☐ ちがった！	

図ー7 ワークシート2

合ファシリテーターを研究員が担い、全体の進捗状況を把握して進行を促すほか、各グループでの議論を俯瞰して眺め、グループ間の交流における議論の方向性を定めるよう努めた。

グループワークでは次の流れで活動した（図－8）。

- ① SDGsの視点で公園をみて、ゴール別に各人が感じたことをグループ内で交流する。
- ② ①で出た意見を付箋に書き出し、模造紙1枚にまとめる（図－9）。
- ③ 今日みた公園をもっと包摂的で持続可能な場所にするためにはどうすればよいか、グループ内で議論する。

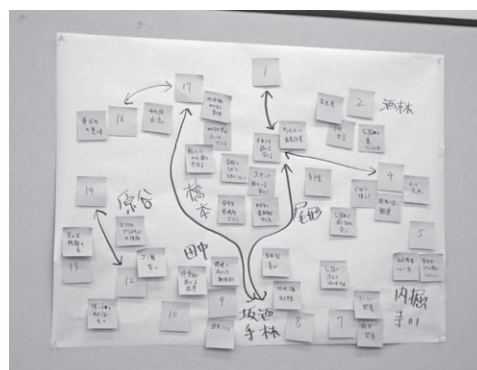
グループワークではグループファシリテーターが「社会的包摂性」や「社会の持続可能性」を軸に意見の交流や、議論が深まるようサポートした。総合ファシリテーターは各グループの議論が軸からずれないように、適宜全体へ呼びかけを行った。

グループワークの後には、各グループで議論した内容を全体場で共有した。全体発表に際してはグループワーク終了の20分前に発表する担当者を受講者の中で決めてもらった。代表者1人が発表したグループ、数人で役割分担したグループ、全員が役割を持って発表したグループなど各グループの色がよく出ていた（図－10）。

全体発表が終わった後は、セミナーの総括を行った。また令和4年度の実施では、受講後に活用する際の参考のため、令和3年度の受講者によるその後の校内でのSDGsの授業実践の紹介や、指導主事とのSDGs対談、受講者からの質疑応答を実施した（図－11）。



図－8 グループワークの様子



図－9 グループワーク（成果物）



図－10 全体交流の様子



図－11 実践発表の様子

3. 本セミナーの成果

1) アンケートにみる受講生の反応

受講後のアンケートには、「今回のセミナーの続編を受講したい」「学校が始まったら総合的な学習の時間で活用していきたい」「身近なところにあるSDGsを子どもたちと考えていきたい」「普段使っている公園を様々な角度で考えることができた」などのコメントが寄せられた。回答からは、セミナー受講によりSDGsを意識するようになっていることが見受けられる。「学校で広めたい」「子どもたちと考えていきたい」「身近なところから」とSDGsを共通言語にして、社会的包摂性や持続可能性について考えていくことにつながりそうな回答もあった。

2) 受講後の実践による広がり

令和4年度はセミナーの中で、昨年度の受講者の実践（小学校4年）を紹介した。今回紹介した実践者のように、受講者が学校現場でセミナーの内容を実践するような広がり方は理想的である。SDGsを使った授業が学校現場に広がっていくことで、たくさんの子どもたちが社会課題に気づき、よりよい社会とは何か考えることを通して、よりよい未来をつくっていくきっかけとなることが期待できる。このように少しずつではあるが、SDGsを共通言語として包摂的社会や持続可能な社会について考えることが学校現場へ広がりを見せている。

一方、課題としては全県への普及にはまだ至っていないことがあげられる。本セミナーの受講者の居住地の属性は、ひとはくの他のセミナーより比較的多様であったが、もっと多様な地域の方に受講してもらいたいと願っている。本セミナーを3年間続けてきたことで、徐々に受講者が増えてきている。このことを踏まえ、今後も積極的に広報を実施し、より多様な地域の受講者に包摂的な社会について考えるきっかけを届けていきたい。

4. まとめ

ひとはくには県教育委員会の指導主事が在籍している。学校現場のことや、教育に関することについて研究員から相談を受けて一緒に検討することも多い。今回紹介したセミナーも研究員との相談の中で、指導主事と多様な研究分野の研究員が協働でできることを考えた結果生まれたものである。学習指導要領に示されている教育活動の中での社会教育施設の活用の根幹は、子どもたちへの教育の充実にある。今回のセミナーは、学校教育の様々な場面においてより身近なことへのフィードバックが可能な内容である。SDGsを使って自分の身近な社会を見つめなおしてみると、「誰かを置き去りにしていないか」「こぼれ落ちてしまった友だちはいないか」などの気づきが生まれてくるだろう。この気づきこそ包摂的で持続的な社会を担うきっかけとなるのではないだろうか。今後も博物館在籍の指導主事として博学連携を通して、より多くの子どもたちに充実した教育を届けられるよう貢献していきたい。

最後に、本セミナーの中で、三田市立弥生小学校の長田悠佑教諭に実践発表していただきました。感謝するとともに、今後のご活躍を祈念いたします。